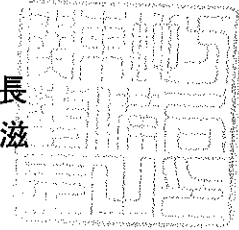




国 関 整 地 河 第 1 0 号
平 成 2 2 年 8 月 1 0 日

長 野 県 知 事
村 井 仁 様

国土交通省
関東地方整備局長
菊 川 滋



天竜川水系飯田圏域河川整備計画の認可について（通知）

平成22年6月23日付け22河第103号で申請のありました天竜川水系飯田圏域河川整備計画について、認可します。

天竜川水系 飯田圏域
河 川 整 備 計 画

平成 2 2 年 8 月

長 野 県

目 次

第1章 対象圏域と河川の現状

第1節 対象圏域の概要	1
第2節 圏域内河川の現状と課題	5
第1項 治水に関する現状と課題	5
第2項 利水に関する現状	9
第3項 河川環境に関する現状と課題	9

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 計画対象区間	12
第2節 計画対象期間	18
第3節 河川整備計画の目標	
第1項 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	18
[新戸川]	18
[円悟沢川]	19
[松川ダム]	19
第2項 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	20
第3項 河川環境の整備と保全に関する事項	21

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行 により設置される河川管理施設の機能の概要	22
第1項 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	22
[新戸川]	22
[円悟沢川]	23
[松川ダム]	24
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	26

第4章 河川情報の提供、地域や関連機関との連携等に関する事項

第1節 河川情報の提供に関する事項	27
第1項 減災に資する対策	27
第2項 河川に関する情報提供	27
第3項 水質事故等に対する対応	27
第2節 地域や関係機関との連携等に関する事項	27
第1項 水防活動への支援	27
第2項 開発行為に伴う流出量の低減	27
第3項 流域住民との連携	28

目 次

第1章 対象圏域と河川の現状

第1節 対象圏域の概要	1
第2節 圏域内河川の現状と課題	5
第1項 治水に関する現状と課題	5
第2項 利水に関する現状	9
第3項 河川環境に関する現状と課題	9

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 計画対象区間	12
第2節 計画対象期間	18
第3節 河川整備計画の目標	
第1項 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	18
[新戸川]	18
[円悟沢川]	19
[松川ダム]	19
第2項 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	20
第3項 河川環境の整備と保全に関する事項	21

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行 により設置される河川管理施設の機能の概要	22
第1項 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	22
[新戸川]	22
[円悟沢川]	23
[松川ダム]	24
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	26

第4章 河川情報の提供、地域や関連機関との連携等に関する事項

第1節 河川情報の提供に関する事項	27
第1項 減災に資する対策	27
第2項 河川に関する情報提供	27
第3項 水質事故等に対する対応	27
第2節 地域や関係機関との連携等に関する事項	27
第1項 水防活動への支援	27
第2項 開発行為に伴う流出量の低減	27
第3項 流域住民との連携	28

（地形・地質）

飯田圏域は、西の木曽山脈（中央アルプス）、東の赤石山脈（南アルプス）とその前山の伊那山地の間を南流する天竜川に沿って狭長に分布する伊那谷からなり、南の天竜峡付近で下條山脈にさえぎられる。

天竜川左岸の伊那山地西面は緩斜面で、段丘面が若干認められるだけなのに対し、天竜川右岸の木曽山脈東面は急斜面をなし、山裾には複合扇状地が発達している。そのため、天竜川の右支川は、上流の山間部では溪流をなし、山地からの出口には扇状地を形成し、下流では上流に比べて緩い沖積面を流下している。

また、飯田圏域の地質は、赤石山脈と伊那山地の間をほぼ南北に延びる中央構造線の東には三波川帯、御荷鉾帯、秩父帯及び四万十帯と呼ばれる地質帯が带状に分布し、西には領家帯と呼ばれる地質帯が分布している。東側の三波川帯、御荷鉾帯は風化して粘土になりやすく、そのため地すべりが多く発生し、西側の領家帯はもろい岩盤で崖崩れが発生しやすい性質を持っている。

（気候）

飯田圏域は、太平洋側気候を示しており、年間降水量は 1,600mm～2,400mm となっている。降雨は、梅雨期・台風期に集中することが多く、県内でも雨の多い地域のひとつであり、これまでもこの時期の豪雨により数多くの水害が発生している。

飯田圏域は、県内では最も温暖な地域ではあるが、飯田市における年平均気温は 13.1 と冷涼な気候であるとともに、寒暖の差が非常に大きい特徴がある。また、積雪量は飯田市で年平均 42cm と、県内では比較的少ない。

（人口・産業経済）

飯田圏域の総人口は約 171,000 人で、このうち飯田市が約 107,000 人と圏域内の約 60%を占めている。平成 10 年からの推移を見ると、僅かながらではあるが減少傾向にある。

主な産業は、機械加工業、金属加工業、食品加工業等で、飯田市を中心として発展している。農業は、天竜川河畔や段丘では、りんご、梨、市田柿、梅などの果樹や酪農、養豚等の畜産、南部では茶、西部の山間地では肉牛やスイートコーン等地域の特性を生かした多様な農畜産業が展開されている。

飯田圏域内には、名所・旧跡、温泉、高原等の観光・レクリエーション地が多く、渓谷、瀑布、溪流、深淵等の自然がおりなす天竜峡は国指定の名勝であり、天竜川舟下り・ライン下りとともに地域の観光拠点として県内外の観光客が多く訪れている。また、和知野川^{わちのがわ}沿いなどにあるキャンプ場などは貴重な観光資源となっており、天竜川では、毎年8月に飯田市^{ときまた}時又において灯ろう流しのイベントが行われている。

また、飯田圏域では、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の整備が予定されており、東日本と西日本、太平洋側と日本海側を結ぶ高速交通網の結節地域として、経済や文化の交流拠点整備が図られている。

（風土・文化等）

飯田圏域の主要道路は、主に三州街道^{さんしゅうかいどう}（現在の国道153号）、飯田宿及び・八幡宿^{いいだじゅく やわたじゅく}（飯田市）を起点として、新野峠^{にいのとうげ}を越えて遠州^{えんしゅう}に至る遠州街道^{えんしゅうかいどう}（現在の国道151号）、遠山郷^{とやまごう}に至る秋葉街道^{あきばかいどう}（現在の国道152号）である。

三州街道は信州と三河^{みかわ}を結び圏域を縦断し、江戸時代には中山道^{なかせんどう}の脇往還であり、通商の道として盛んに利用され、「中馬^{ちゅうま}のみち」として知られている。

遠州街道は上方からの文化をいち早く伝えた道で、阿南町日吉^{ひよし}のお鋤祭りや天龍村^{くわまつ}坂部^{さかんべ}の冬祭り、下條村^{しもじょう}の下條歌舞伎^{かぶき}など、多くの民族芸能が伝承されている。また、街道沿いには石仏^{せきぶつ}、馬頭観世音^{ばとうかんぜおん}などをはじめ、多くの石造物がいたる所に残されていて文化財の宝庫である。

秋葉街道は、秋葉神社の参拝に利用された信仰の道として知られ、街道沿いは圏域を囲む雄大な山脈、豊かな緑、豊富な水等、四季に富んだ自然環境に恵まれている。

伊那谷の民家には大屋根をもつ本棟造り^{ほんむねづく}と呼ばれる建築物が多くみられ、古い街並みが残り、当時の地域の文化や暮らしが偲ばれる。

飯田圏域には、文化財保護法に基づく指定文化財（平成21年5月現在：国指定29、県指定54、市町村指定317）が数多く存在する。また、有形文化財及び史跡の数も多く、圏域全体に平均的に分散している。飯田圏域には弥生後期から飛鳥時代に築造された古墳も多く、「南条天神塚^{みなみじょうてんしんづか}（雲彩寺^{うんさいじ}）古墳」をはじめとした長野県内でも有数の古墳密集地帯で、特に竜丘^{たつおか}、松尾^{まつお}、座光寺^{ざこうじ}地区に密集している。

（土地利用）

飯田圏域は、自然環境や土地利用の面から、圏域中央部から北部にかけた天竜川沿いの低地と、これを囲む山脈からなる急峻な地形を呈する山間地の2つに大きく区分することができる。

この天竜川に沿った低地は伊那谷^{いなだに}と呼ばれ、飯田市の市街地を中心に圏域全体の約2%が住宅地、約6%が農地として利用され、市街地を囲むように果樹園や水田等の耕作地帯が広がっている。

一方、低地を囲む山間地は南アルプス国立公園、天竜奥三河^{てんりゅうおくみかわ}国定公園、天竜小洪水^{てんりゅうこしづ}系県立公園等の自然公園区域として指定されており、自然環境はきわめて良好である。

（自然環境）

飯田圏域の植生は、標高約400mの伊那谷周辺から南アルプスの山頂部約3,000mの高山まで幅広い垂直分布をもつ地形条件により、多種多様となっている。

高山帯に属する南アルプス山頂を中心とした尾根では高山低木林がみられる。標高1,500m～2,000m以上の亜高山帯では自然植生であるシラビソ・オオシラビソ群落や、コメツガ群落等の針葉樹が、亜高山帯の下の方ではクリ・ミズナラやコナラ群落の広葉樹やカラマツ植林地といった針葉樹林等の自然植生が改変された後に成立した二次林（代償植生）が分布している。また、天竜川沿いの低地では、市街地や住宅地の周辺に水田や畑地、果樹園等が分布している。

長野県では、「緑の社会資本」である森林の多面的な機能を持続的に発揮させ、健全な姿で次世代に引き継いでいくために、平成20年から「長野県森林づくり県民税」を導入し、間伐等の森林づくりを推進している。

飯田圏域の貴重な植物及び植物群落としては、木曽山脈の自然植生、天竜川の暖帯林、風越山^{かざこしやま}のベニマンサクの自生地等がある。

また、飯田圏域内は、先に述べたとおり寒暖の差が激しく、地形的にも植生的にも複雑であるとともに、自然公園区域、鳥獣保護区等の指定地が広く分布し、自然豊かな環境にあるため、多種多様な動物が生息している。ほ乳類では、ニホンジカ、ツキノワグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ等の多種の生息が確認されている。

河川形態もまた変化に富み、上流部の小さな瀬と淵の連続する河川ではアマゴ、イ

ワナといった冷水性の渓流魚が共通してみられ、その他、扇状地も含めて河川には、コイ、フナ、ウグイ、カジカ、ニジマス、ドジョウ、ヨシノボリ等の多種の魚類が生息・繁殖するとともに、水産魚としてアユが放流されている。

魚類の他に水辺に関わり深い動物として、鳥類ではヤマセミ、キセキレイ、カワガラスが、山間部ではハコネサンショウウオ、ダゴガエル、モリアオガエル、カジカガエルなどといった両生類の生息が確認されている。

第2節 圏域内河川の現状と課題

第1項 治水に関する現状と課題

飯田圏域は、天竜川の左右岸とも、支川下流部では扇状地が形成されており、特に右支川は、上流の山間部で急峻な渓流を形成し、下流部で沖積面を緩く流下するといった対照的な特徴を呈しているため、ひとたび洪水が発生すると氾濫した水が扇状地上を拡散するように広がり大きな被害が発生してきた。

このため、ほぼ毎年のように洪水による被害に見舞われており、特に^{さぶろくさい}三六災と呼ばれる昭和36年6月の梅雨前線豪雨では、^{こしぶがわ}小渋川、^{あちがわ}阿智川、^{くめがわ}久米川、^{まつかわ}松川（飯田市）、^{まつかわ}松川（松川町）などで甚大な被害を受けた。さらに、昭和58年9月の台風10号では、久米川、^{しんどがわ}新戸川などで大きな被害を受けており、近年では、平成3年9月の台風18号により、久米川、新戸川などで被害が発生している。

これらの度重なる被害に対し、松川（飯田市）では、松川ダム（昭和50年完成）が、松川（松川町）では、片桐ダム（平成2年完成）が建設され、小渋川、久米川、阿智川等では、概ね整備が完了している。

人口、資産が集中しており、流下能力が不十分で、過去に浸水被害が頻発している新戸川及び流下能力が不十分であり、特に人口、資産が集中する市街地を流下している^{えんござわがわ}円悟沢川については、順次改修を推進する必要がある。

なお、優先的に整備を実施する河川の現状は、以下のとおりである。

〔新戸川〕

新戸川では、昭和58年9月の台風10号や平成3年9月の台風18号などにより、度々浸水被害が発生している。また、飯田市^{かみさと}上郷地区において大型店をはじめとする商業地や住宅地が広がり、近年宅地化が著しい地域であるにもかかわらず、中流部に

において流下能力が不十分な箇所があり、浸水被害を及ぼす恐れがある。

[円悟沢川]

円悟沢川では、飯田市丸山地区、羽場地区において沿川土地利用が盛んであるが、特に源長川合流点付近の現況流下能力が小さく、災害発生危険度が大きいいため、災害発生時には流域に大きな被害を及ぼす恐れがある。

また、飯田圏域の上流域の土砂生産域は、地形が急峻なことに加えて地質が脆弱であるため、土砂生産が活発である。特に松川ダムでは、ダム貯水池への堆砂が進んでおり、貯水池運用に支障をきたしているため、恒久堆砂対策を推進する必要がある。

松川ダムの現状は、以下のとおりである。

[松川ダム]

松川ダムの上流域は、地形が急峻なことに加えて地質が脆弱であり、昭和 58 年の台風 10 号によりダム貯水池内に大量の土砂流入があり、その後も流域の山地崩壊等により、平成 20 年時点の堆砂容量に対する堆砂量の比率が約 143%となっており、貯水池運用に支障をきたしている。

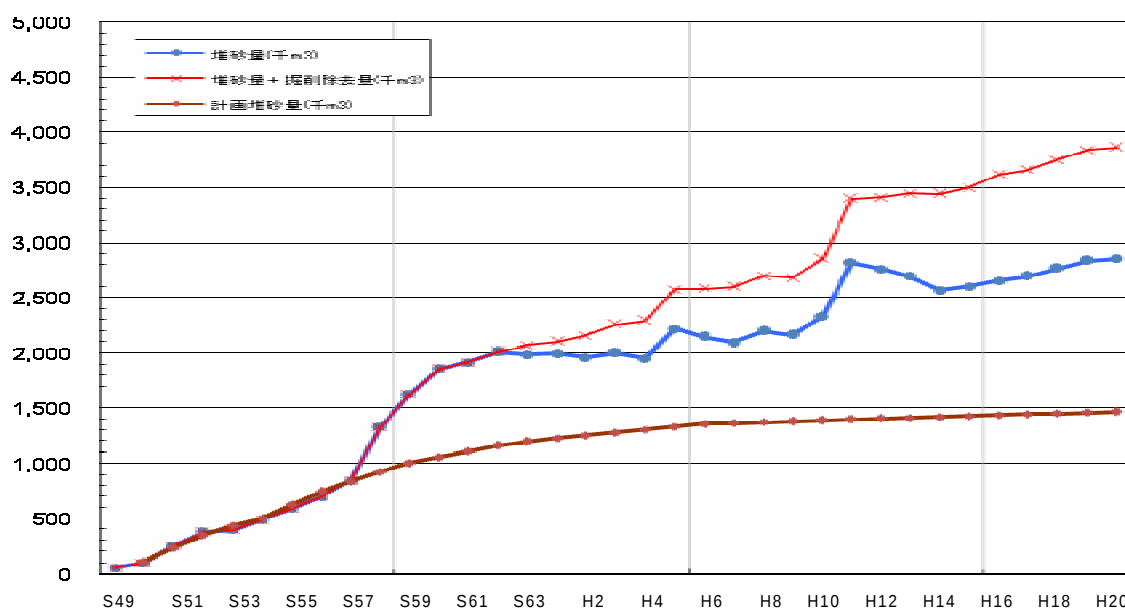


図 - 2 松川ダム累計堆砂量



上：昭和 52 年の貯水池状況 下：昭和 58 年の異常堆砂状況

第2項 利水に関する現状

飯田圏域は、県内でも比較的雨の多い地域であることから、河川水量が豊かで、農業用水や上水道用水、発電用水として活発に利用されている。

松川（飯田市）では、松川ダムにより、約1,000haのかんがい用水と飯田市での水道用水として、最大約30,000m³/日の取水を可能にしている。また、松川（松川町）では、片桐ダムにより、約180haのかんがい用水と松川町での水道用水として、最大約3,500m³/日の取水を可能にしている。

松川（松川町）の片桐ダム地点における流況は、平成3年から平成20年までの18年間の平均湧水流量が0.35m³/s、平成11年から平成20年までの1/10湧水流量が0.30m³/sとなっており、いずれも正常流量（0.15m³/s）を上回っている。また、飯田圏域内のその他の河川においても、近年、湧水による取水困難など、深刻な湧水被害は発生していない。

第3項 河川環境に関する現状と課題

（水質）

飯田圏域における水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定状況は、図-4に示すとおりで、小渋川、松川（飯田市）上流（妙琴橋）^{みょうきんばし}、阿智川、和知野川^{とちやまがわ}、遠山川がA類型に、松川（飯田市）下流（永代橋）^{えいたいばし}がA類型に指定されており、環境基準点での水質は、環境基準を概ね満足している。

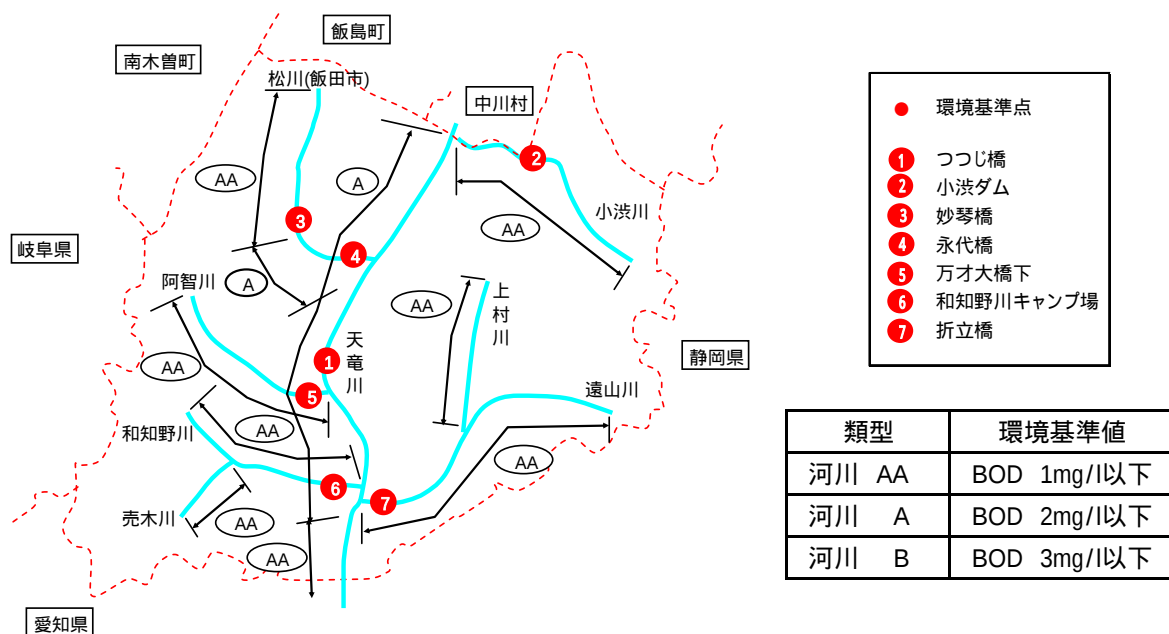
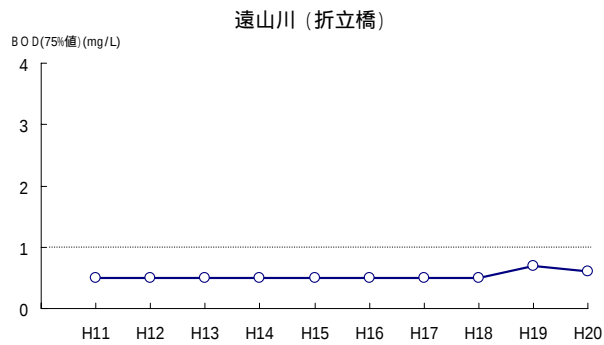
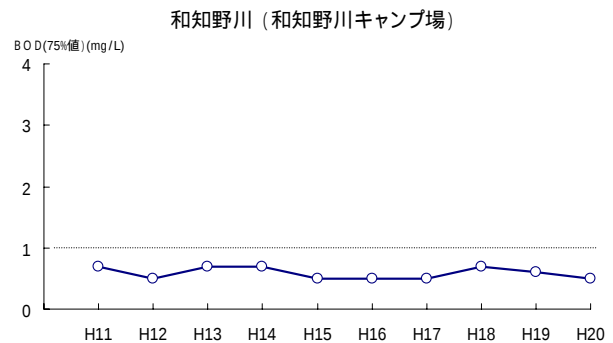
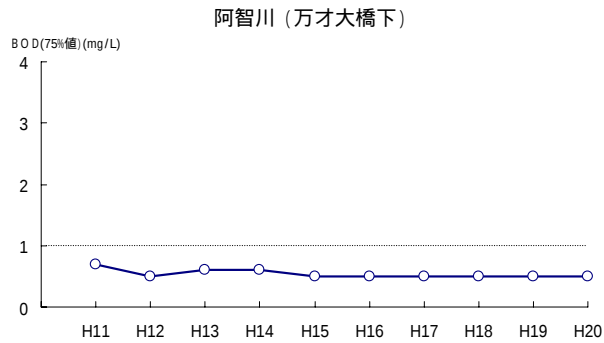
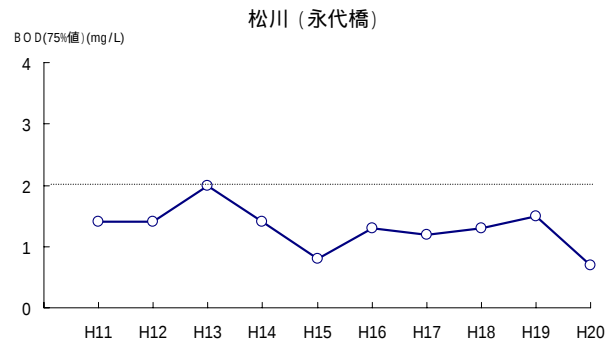
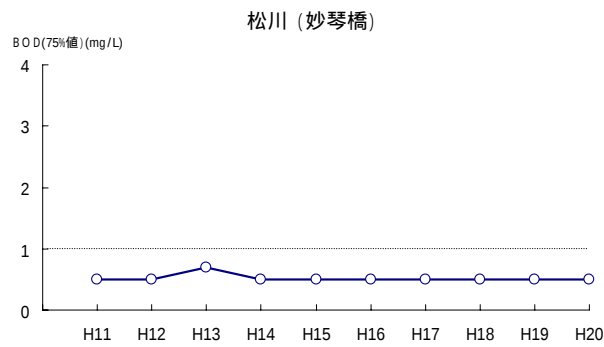
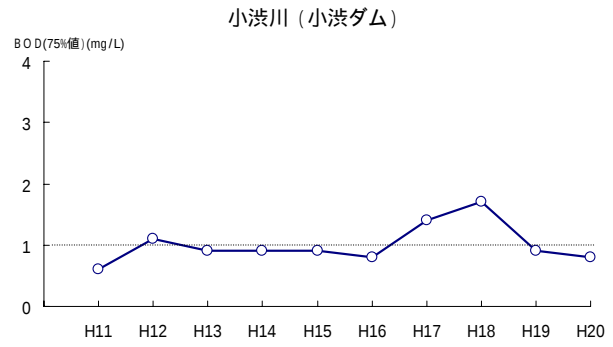
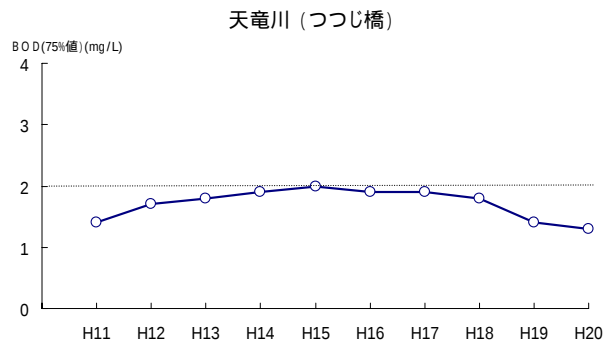


図-4 圏域の水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定状況

グラフ中の横線は環境基準値



BOD(Biochemical Oxygen Demand : 生物化学的酸素要求量)

河川などの水質で、有機物による汚濁の程度を示すもので、水中に含まれている有機物質が、一定期間、一定温度のもとで微生物によって酸化、分解されるときに消費される酸素の量をいい、数値が高いほど有機物の量が多く、汚れが大きいことを示しています。

75%値

年間12回測定の日平均値を低い順に並べて9番目の測定値です。

図 - 5 環境基準点の水質（BOD75%値）の推移

出典：「平成 20 年度水質測定結果」長野県

（河川利用）

また、^{あぶかわ}虻川、松川（飯田市）、松川（松川町）、阿智川、和知野川、遠山川等では特に河川の空間利用が盛んで、地元自治体などが中心となってキャンプ場、広場を整備・管理し、多くの人々に利用され、住民の憩いの場所となっている他、貴重な観光資源の一つともなっている。



和知野キャンプ場(和知野川)

（地域住民との連携）

自然豊かな河川を守るために組織された河川愛護団体は、平成 20 年度には、飯田圏域全体で 133 団体が結成され、地域ぐるみでの河川周辺の草刈りやゴミ拾い等河川愛護の取り組みが行われている。

良好な河川環境を保全していくためには、それぞれの河川・地域に応じたきめ細かな対応が不可欠であり、河川管理者と地域住民が十分なコミュニケーションを図り、協力関係を保持することが重要である。



アレチウリ駆除(松川)

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

飯田圏域の河川整備にあたっては、これまでの河川改修、水害発生状況、河川利用状況や河川環境の保全に配慮し、長野県中期総合計画、天竜川水系河川整備基本方針、天竜川水系河川整備計画、第4次長野県水環境保全総合計画及び第二次長野県環境基本計画等との整合を図り、関連する他事業等との整合が取れた河川整備を行うものとする。

なお、本整備計画は、流域の社会情勢の変化、自然環境・河川状況の変化、地域の意向等を適切に反映できるよう適宜見直しを行うものとする。

第1節 計画対象区間

本河川整備計画の対象となる河川は、飯田市、下伊那郡松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村の1市3町9村における天竜川水系に属する一級河川のうち、表-1に示す長野県が管理する142河川、全長約672kmとする。

表-1 飯田圏域河川整備計画で対象とする区間

河川名	区 間		河川延長 (km)
	上 流 端	下 流 端	
はやきどがわ 早木戸川	下伊那郡阿南町新野 3724 番地の 79 地先 同町新野 3724 番地の 43 地先	天竜川への合流点	18.706
よしがしまざわがわ 吉ヶ島沢川	下伊那郡天竜村大字神原字中組平ラノ内後山 741 番のイ地先 同村同大字字中組ラノ内ウサギ作り 743 番のイ地先	早木戸川への合流点	1.750
しばざわがわ 芝沢川	下伊那郡天竜村大字神原字中坂 3548 番の 1 地先 同村同大字同字 3548 番の 2 地先	早木戸川への合流点	1.450
ヨガラス ^{ざわがわ} 沢川	下伊那郡天竜村大字神原字ラフチノ久保 3518 番の 2 地先 同村同大字字ヨガラス沢 3452 番地先	芝沢川への合流点	0.250
おおこうちがわ 大河内川	下伊那郡天竜村大字神原字原 4994 番地先 同村大字信濃平 4646 番地先	早木戸川への合流点	5.010
いちせがわ 市ノ瀬川	下伊那郡阿南町且開字西峠 3721 番の 3 地先 同町且開字南峠 3719 番の 33 地先	早木戸川への合流点	2.300
かみさわがわ 紙沢川	下伊那郡天竜村字平岡 1135 番地先 同村同字 981 番の 6 地先	天竜川への合流点	0.500
つきさわがわ 月沢川	下伊那郡天竜村字平岡 1361 番地先 同村同字 1112 番の 2 地先	紙沢川への合流点	0.400
とやまがわ 遠山川	下伊那郡南信濃村(現飯田市)大字木沢字本谷山 592 番 7 地先 同村(現飯田市)同大字同字 592 番 8 地先	天竜川への合流点	34.108
やえこうちがわ 八重河内川	下伊那郡南信濃村(現飯田市)字八重河内 514 番地先 同村(現飯田市)同字 1403 番地先	遠山川への合流点	3.210
こあらしがわ 小嵐川	下伊那郡南信濃村(現飯田市)大字八重河内 902 番の 8 地先 同村(現飯田市)同字 902 番の 6 地先	八重河内川への合流点	4.900
かじやがわ 梶谷川	下伊那郡南信濃村(現飯田市)字八重河内字梶谷 1725 番地先 同村(現飯田市)同大字同字 1725 番地先	八重河内川への合流点	7.500

河川名	区 間		河川 延長 (km)
	上 流 端	下 流 端	
こいけざわ 小池沢	下伊那郡南信濃村(現飯田市)大字和田字柄沢 2310 番のイ地先の治山堰堤	遠山川への合流点	1.000
おしでざわがわ 押出沢川	下伊那郡南信濃村(現飯田市)大字和田字間戸 4 番のロ地先の砂防堰堤下流端	遠山川への合流点	0.500
いけくちがわ 池口川	下伊那郡南信濃村(現飯田市)大字和田字池口山 2559 番地先	遠山川への合流点	8.393
みつざわがわ 三ツ沢川	下伊那郡南信濃村(現飯田市)大字木沢 842 番の 1 地先 同村(現飯田市)同大字 853 番の 1 地先	遠山川への合流点	0.510
かみむらがわ 上村川	下伊那郡上村(現飯田市)字程野 109 番地先	遠山川への合流点	16.715
かみざわがわ 上沢川	下伊那郡南信濃村(現飯田市)大字木沢字上島 328 番の 1 地先の砂防堰堤下流端	上村川への合流点	0.400
みなみからさわがわ 南唐沢川	下伊那郡南信濃村(現飯田市)大字木沢字八日市場 10 番の 6 地先の砂防堰堤下流端	上村川への合流点	0.600
あかさわがわ 赤沢川	下伊那郡上村(現飯田市)字伊塚 857 番の 1 地先の赤沢第 1 治山堰堤下流端	上村川への合流点	0.500
いとうざわがわ 伊藤沢川	下伊那郡上村(現飯田市)字伊藤 643 番のロ地先 同村(現飯田市)同字 743 番地先	上村川への合流点	1.000
おのざわがわ 小野沢川	下伊那郡上村(現飯田市)字岩小野 181 番の 1 地先の治山堰堤下流端	上村川への合流点	0.500
あざわがわ 小沢川	下伊那郡上村(現飯田市)字上村川通り 167 番の 1 地先 同村(現飯田市)字橋本 24 番の 2 地先	上村川への合流点	1.200
か が ら ざわ 加ヶ良沢	下伊那郡南信濃村(現飯田市)字木沢 592 番の 14 地先 同村(現飯田市)同字 592 番の 28 地先	遠山川への合流点	4.500
きたまたざわ 北又沢	下伊那郡上村(現飯田市)字本谷川 1321 番 1 地先の上流端を示す標柱	遠山川への合流点	6.500
うきぼらがわ 鬼洞川	下伊那郡南信濃村(現飯田市)字本谷山 592 番の 33 地先 同村(現飯田市)同字 592 番の 35 地先	遠山川への合流点	3.500
いろうざわ 易老沢	下伊那郡南信濃村(現飯田市)大字木沢字本谷山 592 番 45 地先 同村(現飯田市)同大字同字 592 番 6 地先	遠山川への合流点	0.700
わ ち の が わ 和知野川	下伊那郡浪合村(現阿智村)大字浪合 1139 番地の 25 地先 同村(現阿智村)同大字 153 番の 16 地先	天竜川への合流点	29.243
うるぎがわ 売木川	下伊那郡売木村字斧取山の内明皇山 2650 番の 26 地先 同村字大平山 1177 番地の 292 地先	和知野川への合流点	16.578
すずがさわがわ 鈴ヶ沢川	下伊那郡阿南町字和合 1137 番地の 4 地先 同町同字 1111 番地先	売木川への合流点	4.500
いわくらがわ 岩倉川	下伊那郡売木村字岩倉山 45 番の 498 地先 同村字軒山 419 番の 263 地先	売木川への合流点	2.800
のきがわ 軒川	軒川日向小沢の合流点	売木川への合流点	3.600
どうせんざわがわ 道仙沢川	下伊那郡売木村字斧取山の内中山洞 2651 番の 200 地先 同村字弥八山 2649 番の 70 地先	売木川への合流点	0.760
じ ぶ ざ が わ 治部坂川	下伊那郡浪合村(現阿智村)大字浪合 1647 番の 8 地先 同村(現阿智村)同大字 1647 番の 8 の 1 地先	和知野川への合流点	2.600
まん ぐ が わ 万古川	飯田市大字千代 2844 番の 634 地先 同市同大字 2844 番の 1 地先	天竜川への合流点	16.895
と ちゅうがわ 栃中川	下伊那郡泰阜村字栃城 9026 番の 1 地先 同村字向山の内大沢入 9023 番の 1 地先	万古川への合流点	7.500
もんばらがわ 門原川	下伊那郡阿南町字新蔵畑 4351 番地先 同町字八尺 6030 番地先	天竜川への合流点	8.502
おおさわがわ 大沢川	下伊那郡阿南町字古城 2389 番地先 同町同字 2479 番地の 2 地先	天竜川への合流点	2.900

河川名	区 間		河川 延長 (km)
	上 流 端	下 流 端	
うしがつめがわ 牛ヶ爪川	下伊那郡阿南町富草字弁天 469 番地先 同町富草字 391 番地先	天竜川への合流点	3.800
みなみ さわがわ 南の沢川	下伊那郡下条村大字陽阜字宮の腰 4587 番地先 同村同大字字川原 5140 番の 1 地先	牛ヶ爪川への合流点	2.200
にぎりさわがわ 濁沢川	下伊那郡下条村大字陽阜字濁沢 4339 番地先 同村同大字字日陰 4630 番地先	牛ヶ爪川への合流点	0.850
しらまたがわ 白又川	下伊那郡下条村字睦沢字坂 8925 番地先 同村字城山 8760 番地先	天竜川への合流点	3.500
やはすがわ 矢筈川	下伊那郡泰阜村字トチジマ 2656 番地先 同村字アラシ 2648 番の 5 地先	天竜川への合流点	4.600
かきのさわがわ 柿野沢川	下伊那郡泰阜村字黒見田 3444 番地先の県道橋下流端	矢筈川への合流点	2.900
よねがわ 米川	飯田市大字千代字野池山 1781 番地先	天竜川への合流点	12.862
たにざわがわ 谷沢川	飯田市大字千代 2844 番地のへ号の 3 地先 同市同大字 2844 番のイ号の 2 地先	米川への合流点	3.300
あ ち がわ 阿智川	飯田市大字上飯田 8116 番の 1 地先	天竜川への合流点	22.668
こう ち がわ 河内川	下伊那郡阿智村伍和 5261 番の 5 地先 同村伍和 4981 番のト地先	阿智川への合流点	4.500
ぎみさわがわ グミ沢川	下伊那郡阿智村伍和 7565 番の 154 番地先 同村同大字 7565 番の 52 地先	河内川への合流点	1.300
おおさわがわ 大沢川	下伊那郡阿智村大字大野 4870 番地先 同村同大字 4869 番地先	阿智川への合流点	4.560
ほんたにがわ 本谷川	下伊那郡阿智村大字智里字戸沢 4259 番の 1 地先	阿智川への合流点	11.928
よこかわがわ 横川川	下伊那郡阿智村大字駒 2300 番地先	本谷川への合流点	6.000
そのはらがわ 園原川	下伊那郡阿智村字神坂山 8116 番の 1 地先	本谷川への合流点	1.495
みなみ さわがわ 南の沢川	下伊那郡阿智村智里 4259 番地先	本谷川への合流点	1.500
ゆみ またがわ 弓の又川	下伊那郡阿智村智里 4259 番の 1 地先 同村智里 4259 番の 2 地先	本谷川への合流点	2.250
せいないじがわ 清内路川	下伊那郡清内路村(現阿智村)字大川入 3124 番の 1 地先 同村(現阿智村)同字 3125 番地先	阿智川への合流点	5.995
わ じろさわがわ 和城沢川	飯田市千栄字白地 2315 番地先 同市千栄同字 2329 番地先	天竜川への合流点	3.000
おとうとがわ 弟川	飯田市伊豆木 739 番地 同市伊豆木 731 番の 1 地先	天竜川への合流点	4.300
あにがわ 兄川	飯田市伊豆木 3345 番地先の市道暗渠下流端	弟川への合流点	0.450
ち み じ がわ 紅葉川	飯田市大字千栄 3281 番地先 同市同大字 3186 番の 1 地先	天竜川への合流点	5.450
しみ ず さわがわ 清水沢川	飯田市竜江 6879 番の 4 地先の県道暗渠下流端	天竜川への合流点	1.100
とよ が さわがわ 樋ヶ沢川	飯田市竜江 4596 番の 6 地先 同市竜江 4601 番の 1 地先	天竜川への合流点	0.626
みなみさわがわ 南沢川	飯田市川路 3636 番地先 同市川路 3642 番の 1 地先	天竜川への合流点	0.340
かんのんざわがわ 観音沢川	飯田市川路 4002 番地先 同市川路 3993 番地先	南沢川への合流点	0.378

河川名	区 間		河川 延長 (km)
	上 流 端	下 流 端	
ねぎや沢川 ^{ざわがわ}	飯田市川路 3724 番のイ号地先 同市川路 3866 番のイ号地先	南沢川への合流点	0.490
留々女川 ^{とどめがわ}	飯田市川路 2903 番地の 2 地先 同市川路 3058 番地先	天竜川への合流点	0.557
御庵沢川 ^{ごあんざわがわ}	飯田市竜江 3377 番地先 同市竜江 2274 番の 4 地先	天竜川への合流点	1.595
相沢川 ^{あいざわがわ}	飯田市川路 2014 番の 1 地先 同市川路 2045 番地先	天竜川への合流点	0.665
久米川 ^{くめがわ}	飯田市山本字北の沢 6540 番のチ地先 同市山本字桃ヶ久保 6468 番の 1 地先	天竜川への合流点	8.410
臼井川 ^{うすいがわ}	飯田市三日市場 1049 番地先 同市三日市場 1170 番の 3 地先	久米川への合流点	4.457
茂都計川 ^{もつげがわ}	飯田市伊賀良大字瀬木 2723 番地先 同市伊賀良同大字 2654 番地先	久米川への合流点	6.400
駒沢川 ^{こまざわがわ}	飯田市桐林 3110 番の 1 地先 同市桐林 2762 番の 1 地先	天竜川への合流点	1.193
西沢川 ^{にしざわがわ}	飯田市桐林 1828 番の 2 地先の国道橋下流端	駒沢川への合流点	1.438
新川 ^{しんかわ}	飯田市大瀬木 966 番地先 同市大瀬木 4070 番地先	天竜川への合流点	7.000
イタチ川 ^{がわ}	飯田市上久堅字橋場 7174 番の 1 地先 同市上久堅字井の口 7353 番の 1 地先	天竜川への合流点	8.180
玉川 ^{たまがわ}	飯田市上久堅 1502 のイの 39 地先 同市上久堅 1502 の 127 地先	イタチ川への合流点	6.000
細田川 ^{ほそだがわ}	飯田市大字上久堅字堂上 4242 番地 同市同大字字北入 4267 番地先	玉川への合流点	1.800
越久保川 ^{こいくぼがわ}	飯田市上久堅 2759 番地先 同市上久堅 2773 番地先	玉川への合流点	2.100
卯月川 ^{うづきがわ}	飯田市大字上久堅 4815 番の 1 の上流端を示す標柱	イタチ川への合流点	3.100
知久沢川 ^{ちくざわがわ}	飯田市下久堅戊 1485 番地先 同市下久堅丙 20 番地先	天竜川への合流点	2.100
毛賀沢川 ^{けがさわがわ}	飯田市伊賀良北方 3459 番の 6 地先 同市伊賀良同字 3459 番の 1 地先	天竜川への合流点	11.844
富田沢川 ^{とみたざわがわ}	下伊那郡喬木村字南河原 15058 番の 1 地先 同村同字 15057 番の 3 地先	天竜川への合流点	5.200
菅沼沢川 ^{すがぬまざわがわ}	下伊那郡喬木村字六舩洞 13067 番の 1 地先 同村字菅沼 13065 番の口地先	富田沢川への合流点	1.000
ウツギ沢川 ^{ざわがわ}	下伊那郡喬木村字塩田 13876 番の 2 地先 同村同字 13880 番地先	富田沢川への合流点	1.500
大入川 ^{おおいがわ}	下伊那郡喬木村 15065 番の 4 地先 同村字西沢 15055 番の 15 地先	富田沢川への合流点	1.500
松川 ^{まつかわ}	飯田市上飯田 8178 番の 1 地先	天竜川への合流点	18.748
野底川 ^{のそこがわ}	下伊那郡上郷町(現飯田市)大字黒田字鈴ヶ沢 3844 番の 1 地先 同町(現飯田市)同大字字法橋 3485 番地先	松川への合流点	10.355
板山川 ^{いたやまがわ}	下伊那郡上郷町(現飯田市)大字黒田字一之沢 3840 番の 10 地先 同町(現飯田市)同大字同字 3840 番の 11 地先	野底川への合流点	0.800
谷川 ^{ちがわ}	飯田市飯田上 3088 番の 2 地先 同市飯田 625 番の 25 地先	松川への合流点	0.990
源長川 ^{げんちょうがわ}	飯田市上飯田 582 番地先の県道橋	松川への合流点	1.535

河川名	区 間		河川 延長 (km)
	上 流 端	下 流 端	
おうりゅうじがわ 王竜寺川	飯田市上飯田 6973 番地先 同市上飯田 6964 番地先	源長川への合流点	3.390
まつどうがわ 松洞川	下伊那郡上郷町(現飯田市)大字別府字柏原 3127 番地先 飯田市上飯田 5511 番の 3 地先	王竜寺川への合流点	1.600
えんござわがわ 円悟沢川	飯田市上飯田 7073 番の 1 地先の市道橋	源長川への合流点	1.800
みなみざわがわ 南沢川	大垂沢川の合流点	松川への合流点	1.600
おおたねざわがわ 大垂沢川	飯田市上飯田 8125 番の 10 地先 同市上飯田 8125 番の 10 地先	南沢川への合流点	0.500
にしまたがわ 西俣川	飯田市上飯田 8125 番の 3 地先 同市上飯田 8125 番の 1 地先	松川への合流点	2.200
ひのきざわがわ 桧沢川	飯田市上飯田 8125 番地の 1 地先の治山堰堤	西俣川への合流点	0.400
ほうきざわがわ 箒沢川	飯田市上飯田 8124 番の 1 地先 同市上飯田 8124 番の 1 地先	松川への合流点	0.400
しんどがわ 新戸川	下伊那郡上郷町(現飯田市)大字黒田 1970 番の 3 地先 同町(現飯田市)同大字 1935 番の 1 地先	天竜川への合流点	3.300
おがわがわ 小川川	下伊那郡喬木村大字氏乗字キハチ 9119 番の 1 地先	天竜川への合流点	13.298
くらまざわがわ 鞍馬沢川	下伊那郡喬木村字小畠 8980 番の 1 地先 同村字端場 8988 番地先	小川川への合流点	2.900
しおざわがわ 塩沢川	下伊那郡喬木村大字塩沢 7600 番の 1 地先	小川川への合流点	1.179
どそがわ 土曽川	飯田市座光寺 7 番の 1 地先 同市座光寺 8 番の 1 地先	天竜川への合流点	3.980
とちがほらがわ 栃ヶ洞川	下伊那郡上郷町(現飯田市)大字黒田 4006 番地の 1 地先 同町(現飯田市)同大字 4004 番の 1 地先	土曽川への合流点	1.500
かけのざわがわ 欠野沢川	飯田市大字座光寺 1215 番地先 同市同大字 1198 番地先	天竜川への合流点	2.600
みなみおあしがわ 南大島川	下伊那郡高森町大字牛牧字大岩 825 番の 3 地先 飯田市座光寺字猪山 7 番の 1 地先	天竜川への合流点	4.600
くろざわがわ 黒沢川	下伊那郡高森町大字牛牧字順冷沢 174 番の 4 地先	南大島川への合流点	2.300
えどがさわがわ 江戸ヶ沢川	下伊那郡高森町下市田 1546 番の 4 地先の町道暗渠下流端	黒沢川への合流点	2.000
あらいがわ 新井川	下伊那郡高森町大字牛牧 185 番地先 同町同大字 179 番地先	黒沢川への合流点	1.030
みやざわがわ 宮沢川	下伊那郡高森町大字牛牧 1907 番の 2 地先 同町同大字 1699 番のイ地先	南大島川への合流点	2.040
ひばりがわ 引張川	下伊那郡高森町大字牛牧 1555 番の 1 地先 同町同大字 1299 番地先	南大島川への合流点	1.050
かがすがわ 加賀須川	下伊那郡喬木村字沢山 9115 番地先	天竜川への合流点	14.800
みぶざわがわ 壬生沢川	下伊那郡豊丘村大字神稲 10932 番地先 同村同大字 12518 番の 128 地先	天竜川への合流点	4.320
じもうがざわがわ 地蔵ヶ沢川	下伊那郡豊丘村大字神稲 12154 番地先 同村同大字 7506 番の 3 地先	壬生沢川への合流点	0.650
もとむらがわ 本村川	下伊那郡豊丘村大字神稲 12520 番の 108 地先 同村同大字 10848 番の 1 地先	壬生沢川への合流点	1.500
あぶがわ 蛇川	下伊那郡豊丘村神稲字鬼面山 12523 番の 1 地先 同村神稲同字 12523 番の 2 地先	天竜川への合流点	10.028

河川名	区 間		河川 延長 (km)
	上 流 端	下 流 端	
うるしざわがわ 漆沢川	下伊那郡豊丘村神稲 44 番の 9 地先 同村神稲 4482 番地先	天竜川への合流点	1.500
おおしまがわ 大島川	下伊那郡高森町大字牛牧牛籠山 2887 番の 9 地先 同町大字大島山字尾曾野 28 番の 2 の内地先	天竜川への合流点	10.028
あしべがわ 芦部川	下伊那郡豊丘村神稲字下田村山 12528 番の 1 地先 同村大字河野字百田 5897 番地先	天竜川への合流点	5.800
ながざわがわ 長沢川	下伊那郡豊丘村大字神稲 6684 番の 3 地先 同村同大字 2624 番地先	芦部川への合流点	2.250
ごうしざわがわ 郷土沢川	下伊那郡豊丘村大字神稲 12528 番の 1082 地先 同村同大字 12528 番 1083 地先	芦部川への合流点	1.650
てらさわがわ 寺沢川	下伊那郡豊丘村大字河野 7020 番地先 同村同大字 7029 番地先	天竜川への合流点	4.600
ごまめがわ 胡麻目川	下伊那郡高森町大字吉田字月夜平 2939 番地先 同町大字島山字五三前 186 番の 1 地先	天竜川への合流点	3.200
いちまわがわ 市ノ沢川	下伊那郡豊丘村大字河野 2942 番地先 同村同大字 3082 番の口地先	天竜川への合流点	2.100
たざわがわ 田沢川	下伊那郡高森町山吹 2349 番の 1 地先の砂防堰堤下流端	天竜川への合流点	5.050
てらさわがわ 寺沢川	下伊那郡高森町山吹 7400 番の 71 地先 同町山吹 7494 番地先	田沢川への合流点	3.550
おおさわがわ 大沢川	下伊那郡高森町山吹 2370 番地の 45 地先の砂防堰堤下流端	天竜川への合流点	6.050
さかいざわがわ 境ノ沢川	下伊那郡松川町大字大島 2707 番地先 同町同大字里見 6460 番地先	大沢川への合流点	2.200
からさわがわ 唐沢川	下伊那郡松川町大字大島字ヲトシ 2255 番の 3 地先 同町同大字同字 2284 番の 2 地先	天竜川への合流点	4.450
のいわがわ 野岩川	下伊那郡松川町大字北ノ城 1158 番地先 同町同大字 1156 番の 1 地先	天竜川への合流点	1.310
まざわがわ 間沢川	下伊那郡豊丘村大字河野字大入山 7622 番地先 同郡松川町大字生田字秋永平 7293 番地先	天竜川への合流点	7.000
てらざわがわ 寺沢川	下伊那郡松川町大字生田 5956 番の 1 地先 同町同大字 5957 番の 1 地先	天竜川への合流点	4.000
ふくざわがわ 福沢川	下伊那郡松川町大字生田 4881 番の 1 地先 同町同大字 3633 番の 15 地先	天竜川への合流点	5.700
まつがわ 松川	下伊那郡松川町大字大島字西山 2751 番のイの 2 地先 同町同大字同字 2751 番の口の 2 地先	天竜川への合流点	12.200
こしはがわ 小渋川	下伊那郡大鹿村大字大河原 5013 番の 1 地先 同村同大字 5040 番の 3 地先	天竜川への合流点	23.520 (35,820)
たまざわがわ 滝沢川	下伊那郡大鹿村大字大河原字滝沢 4281 番のイ地先 上伊那郡中川村大字大草 7289 番地先	小渋川への合流点	0.890 (1.270)
かしおがわ 鹿塩川	下伊那郡大鹿村大字鹿塩マチタチ 4344 番の 406 地先 同村大字西山 4344 番の 165 地先	小渋川への合流点	11.848
しおがわ 塩川	下伊那郡大鹿村大字鹿塩 2459 番地先	鹿塩川への合流点	10.464
ふながたさわがわ 舟形沢川	下伊那郡大鹿村大字鹿塩 2348 番地先 同村同大字 2341 番地先	塩川への合流点	1.300
いりやまざわがわ 入山沢川	下伊那郡大鹿村大字鹿塩 2392 番地先 同村同大字 2358 番地先	塩川への合流点	0.700
あおきがわ 青木川	下伊那郡大鹿村大字大河原 4491 番の 5 地先 同村同大字 4491 番の 4 地先	小渋川への合流点	10.200

小内沢川	下伊那郡大鹿村大河原 5040 番 13 地先の御所平第 2 砂防ダム	小渋川への合流点	2.500
合 計		1 4 2 河川 延 長	6 7 2 , 3 1 4 m (6 8 4 , 9 9 6)

注) 下伊那郡松川町を流下する前沢川、保谷沢川、南沢川については、伊那圏域整備計画に記載する。

小渋川、滝沢川の河川延長欄の()の数値は、直轄河川を含む飯田圏域を流下する河川延長である。

第 2 節 計画対象期間

本整備計画の対象期間は、河川整備の実施に関する事項に記載されている河川整備が一連の効果を発現する期間として、今後 2 0 年間とする。

第 3 節 河川整備計画の目標

第 1 項 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

飯田圏域内の河川のうち、沿川の人口や資産の集積状況、現況の流下能力、災害の発生状況、関連事業の状況等を踏まえ、過去に洪水による被害が発生した河川、想定される被害が大きな河川として、新戸川、円悟沢川について優先的に整備する。整備にあたっては、圏域内の他河川とのバランスの取れた目標治水安全度を設定し、この治水安全度に相当する洪水を安全に流下しうる流下能力を確保する。

堆砂計画を上回る土砂が貯水池に流入し、貯水池運用に支障をきたしている松川ダムについては、恒久堆砂対策を実施する。

また、圏域内の全河川について、全川にわたって堤防、護岸、ダム等の河川管理施設の機能を十分発揮できるよう適正な維持管理に努める。

なお、天竜川本川の整備に影響がある箇所については、国と連携・調整を行う。優先的に整備を実施する河川の目標は、以下のとおりである。

[新戸川]

沿川の人口や資産の集積状況、流域内の土地利用状況、災害発生時の社会的影響、他河川の改修計画規模とのバランスを考慮し、30 年に 1 回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保し、飯田市上郷地区において家屋等への浸水被害を防止することを目標とする。

[円悟沢川]

沿川の人口や資産の集積状況、流域内の土地利用状況、災害発生時の社会的影響、他河川の改修計画規模とのバランスを考慮し、30年に1回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保し、飯田市丸山地区、羽場地区において家屋等への浸水被害を防止することを目標とする。

[松川ダム]

洪水バイパス施設を建設することで、貯水池への流入土砂の軽減を図るとともに、貯水池掘削を行うことで、これまでの予備放流を解消して、常時、洪水調節容量を確保することにより、現況の洪水調節計画に支障をきたすことのないようにすることを目標とする。

また、モニタリングにより、恒久堆砂対策施設及び下流河道に流下する土砂量、粒度分布や土砂流下による河川環境の変化の把握に努める。

計画規模	計画日雨量	ダムサイト地点	かなえばし 鼎 橋基準点
1/80	245.5mm	440m ³ /s (200m ³ /s)	570m ³ /s (330m ³ /s)

上段 : ダム調節前流量
(下段) : 計画流量

表 - 2 松川ダム 洪水調節計画概要

第2項 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川敷や堤防天端の利用については、沿川住民や自治体と連携を図りながら適正利用に努める。

松川（松川町）においては、渇水時に流水が不足し、河川環境の悪化等が懸念されるために、片桐ダムで流水の正常な機能の維持に必要な流量確保を行うこととし、河川の低水流況、既存水利流量の確保、景観、動植物の保護、流水の清潔な保持等を勘案し、表 - 3 に掲げる地点において、同表に掲げる水量を確保するよう努める。

（単位：m³/s）

地点名	期 間	水 量
ダム地点	1月1日 ～ 12月31日	0.150
名古屋	1月1日 ～ 4月25日	0.356
	4月26日 ～ 5月20日	0.695
	5月21日 ～ 6月10日	0.627
	6月11日 ～ 6月30日	0.602
	7月1日 ～ 7月20日	0.627
	7月21日 ～ 8月20日	0.642
	8月21日 ～ 8月31日	0.627
	9月1日 ～ 9月10日	0.611
	9月11日 ～ 9月20日	0.589
	9月21日 ～ 12月31日	0.356

表 - 3 松川(松川町)の主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量

他の河川については、各河川の水利用の実態や地元住民の意見を参考に、優先度の高い河川については、取水状況の把握や流況等のデータの蓄積及び動植物の保護、流水の清潔の保持等について必要な調査・検討を行ない、正常流量の設定に努める。

また、異常渇水時には関係者と連携し、節水等の広報活動を行なうとともに、必要に応じて利水関係者間の利用調整のための情報提供に努める。

第3項 河川環境の整備と保全に関する事項

河川工事及び河川の維持にあたっては、多自然川づくりを基本とし、現状の河床形態や動植物の生息・生育環境に配慮した瀬・淵等の保全等、その影響の回避・低減に努め、良好な河川環境の保全・復元に努める。

市街地を流下する河川等、必要な箇所においては、人が川に親しむことのできる環境の整備と保全に努め、河川内へのアプローチが可能となるよう親水性に考慮した河川整備等を行う。

また、河川愛護団体や流域住民との情報交換により、河川の流況等の把握に努めるとともに、地域住民等による河川愛護、河川環境の保全に向けた取り組みに対する支援を継続する。

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

第1項 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

[新戸川]

1 河川工事の目的

30年に1回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水(天竜川合流点で1秒間につき60立方メートル)に対し、河道拡幅や河床掘削により流下能力の確保を図り、飯田市上郷地区において家屋等への浸水被害を防止し、資産を守る。

2 施行の場所及び機能の概要

(1) 施行の場所

市道 ^{ごろうた}五郎田線渡河部から一般県道 ^{いちばさくらまち}市場桜町線渡河部上流までの
約140m区間

(2) 河川整備の種類

河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁架替等

(3) 機能の概要

流下断面の増大により流下能力の向上を図る。

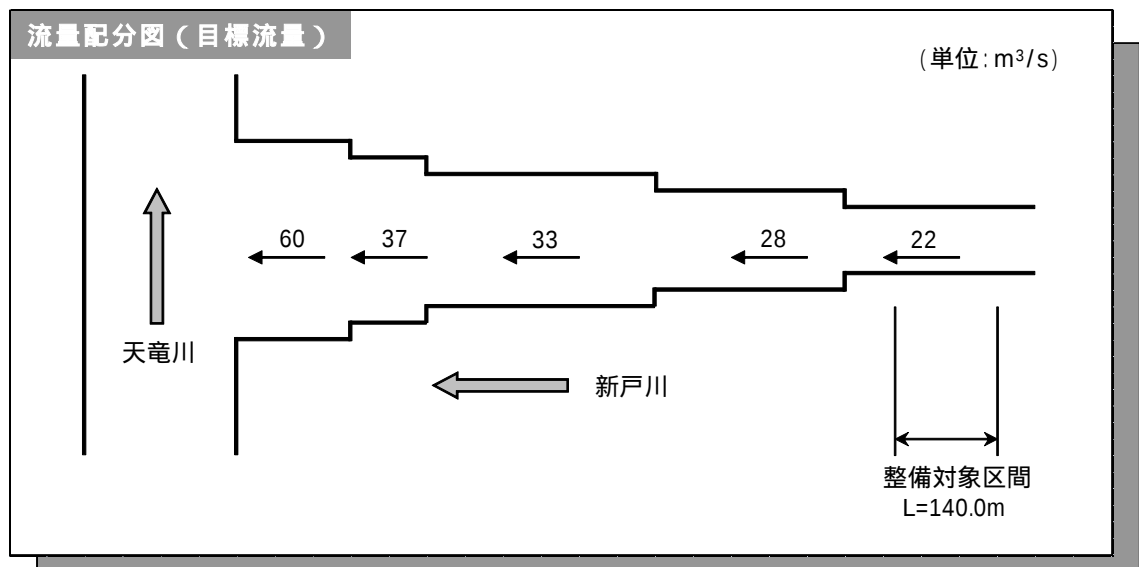


図 - 6 新戸川 流量配分図

[円悟沢川]

1 河川工事の目的

30 年に 1 回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水(源長川合流点で 1 秒間につき 15 立方メートル)に対し、河道拡幅や河床掘削により流下能力の確保を図り、飯田市丸山地区、羽場地区において家屋等への浸水被害を防止し、資産を守る。

2 施行の場所及び機能の概要

(1) 施行の場所

源長川合流点から市道 ^{はくさんまつかわ} 白山松川線渡河部までの約 3 4 0 m 区間

(2) 河川工事の種類

河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁架替等

(3) 機能の概要

流下断面の増大により流下能力の向上を図る。

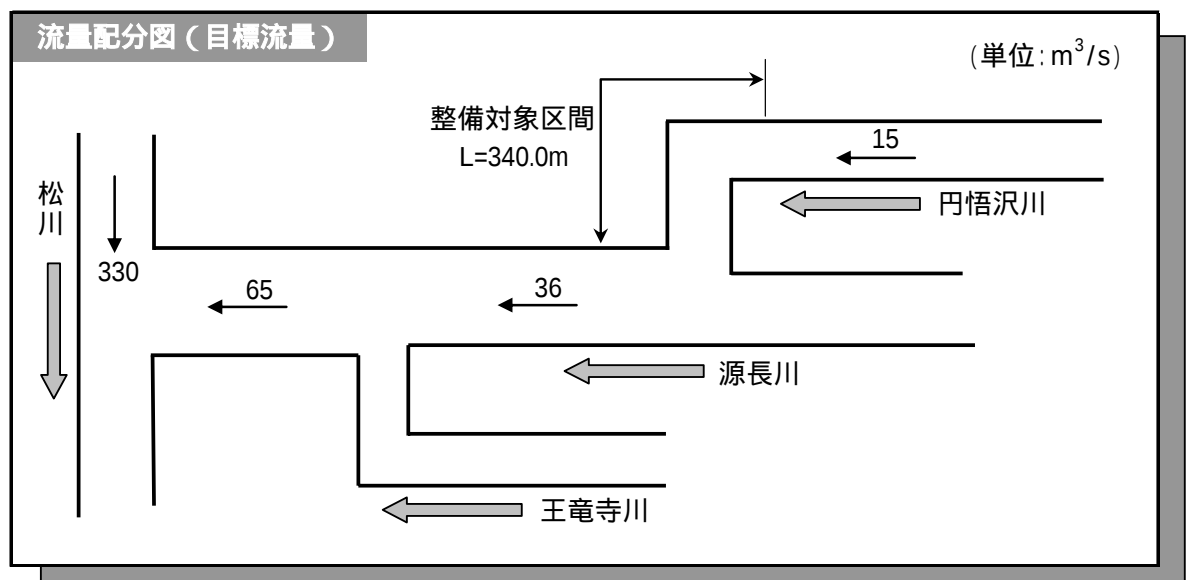


図 - 7 円悟沢川 流量配分図

[松川ダム]

1 松川ダム再開発の目的

80 年に 1 回程度の確率で発生すると予想される降雨(245.5mm/日)により生ずる洪水(鼎 橋基準点で 1 秒間につき 570 立方メートル)に対し、ダムにより洪水調節することで、飯田市 鼎 地区、羽場地区、橋 南地区、上郷地区、松尾地区において、家屋等への浸水被害を防止し、資産を守る。

2 施行の場所及び整備の内容

(1) 施行の場所

松川ダム

(2) 河川工事の種類

松川ダム恒久堆砂対策

分派堰

堤 高 14.9m

形 式 重力式コンクリートダム

バイパス水路

延 長 171.1m

水路断面 幅 5.0 ~ 4.0m 高さ 11.8m

横越流堰 70.0m (越流幅)

バイパストンネル

延 長 1,417m

断 面 幌形 幅 5.2m × 高さ 5.2m

放 水 路

形 式 開水路

延 長 74.0m

貯水池掘削

貯水池内の掘削量 2,400,000m³

(3) 機能の概要

洪水バイパス施設を建設することで、貯水池への流入土砂の軽減を図るとともに、貯水池掘削を行うことで、これまでの予備放流(1,000,000m³)を解消して、常時、洪水調節容量(3,300,000m³)を確保することにより、現況の洪水調節計画に支障をきたすことのないようにする。

計画規模	計画日雨量	ダムサイト地点	かねえぼし 鼎橋基準点
1/80	245.5mm	440m ³ /s (200m ³ /s)	570m ³ /s (330m ³ /s)

上段：ダム調節前流量
(下段)：計画流量

表 - 4 松川ダム 洪水調節計画概要

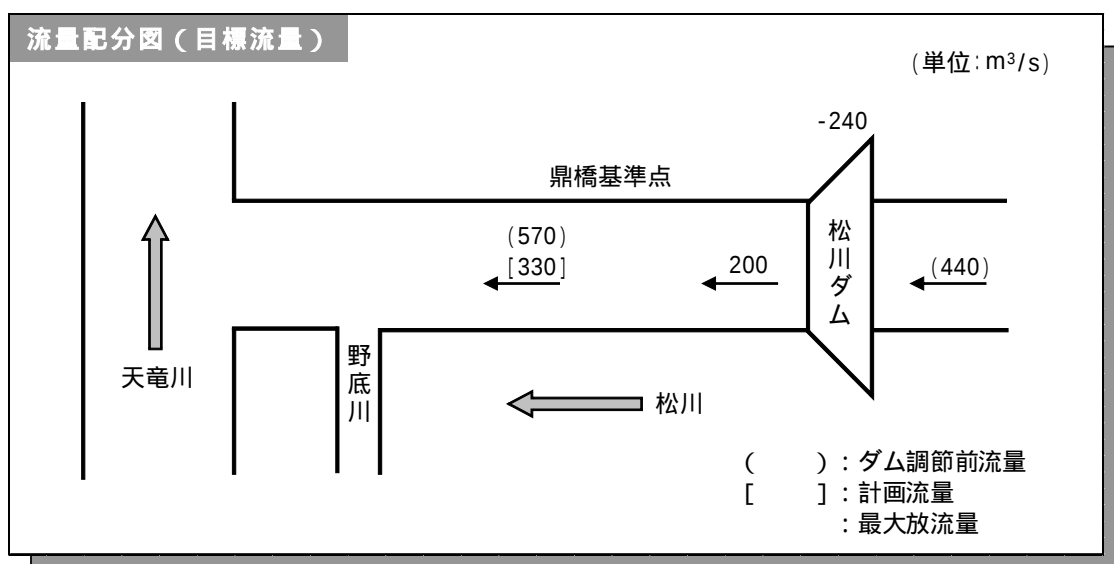


図 - 8 松川 流量配分図

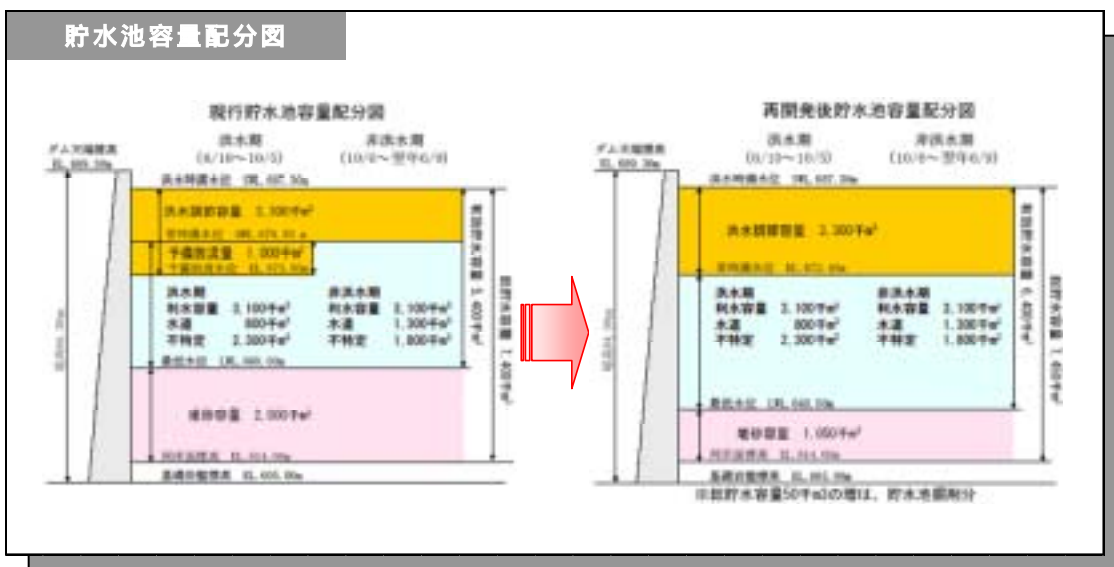


図 - 9 松川ダム 貯水池容量配分図

(4) 土砂の流下による河川環境の変化等の把握

土砂等の流下に際しては、関係機関との連携・調整に努め、恒久堆砂対策施設及び下流河道に流下する土砂量、粒度分布や土砂の流下による環境の変化をモニタリングにより把握し、地域住民や関係機関との情報の共有を図る。

第 2 節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

1 河川の維持の目的

河川の維持管理は、地域特性を踏まえつつ、洪水による災害の発生の防止及び軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全がなされるように行うものとする。

2 河川の維持の種類及び施行の場所

(1) 飯田圏域内の全河川について、堤防、護岸等、河川管理施設の維持や流下能力を確保するため、施設の異常、土砂の堆積状況等の把握に努めるとともに、必要な箇所においては、護岸の修繕や河床掘削、流木の除去等を行い、正常な河川機能の維持に努める。

(2) 河川モニター等、地域住民との連携を図りながら、不法投棄等の抑止、早期発見、河川管理施設等の異常及び水量、水質の監視に努め、適正な維持管理を行う。

(3) 河川愛護団体等の住民による河川愛護活動を支援することにより、住民参加による河川環境の保全を推進する。

(4) 松川ダム及び片桐ダムについては、ダム本体、貯水池及びダムに係わる施設を常に良好に保つため、必要な計測・点検を行うとともに必要に応じダム施設等の更新を行う。

第4章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項

第1節 河川情報の提供に関する事項

第1項 減災に資する対策

雨量・水位情報をリアルタイムで収集し、関係機関等に情報提供することにより、水防活動等、必要な対策への支援を行う。さらに、関係機関と連携して洪水ハザードマップを周知し、水害に関する意識の向上を図り、水害発生時の迅速な避難行動を支援する。

第2項 河川に関する情報提供

パンフレット配布、イベントの開催及びホームページへの掲載等により、河川に関する情報提供を行い、河川に関して広く理解を得られるように努める。

第3項 水質事故等に対する対応

水質事故、濁水被害等が発生した場合には、事故状況の把握、関係機関との情報の共有に努め、水質の監視、事故処理等について関係者及び関係機関と協力して行い、その影響の軽減に努める。

第2節 地域や関係機関との連携等に関する事項

第1項 水防活動への支援等

流下断面や堤防高さの不足等により氾濫が予想される区域や、連絡系統等を定めた水防計画を樹立するとともに、水位情報の提供や避難判断水位到達情報、水防警報の発令を行い、関係機関と連携し、洪水被害を防止・軽減するための水防活動を支援する。また、天竜川に流入する河川等の内水氾濫に対しても、関係機関との連携を図り、その被害の軽減に努める。

第2項 開発行為に伴う流出量の低減

流域の視点に立った適正な河川管理を行うため、治水上影響が大きい土地の改変を伴う開発行為については、関係機関と連携して流出量の低減に努める。

第3項 流域住民との連携

河川は、流域住民の生命・財産を洪水から守る治水施設としての役割はもちろんのこと、近年においては、貴重な水と緑の空間として人々にうるおいを与える役割も評価され、地域と河川の密接な関係を取り戻そうとする気運が高まりつつあることから、計画、施工から維持管理に至るすべての段階において、流域に居住する住民や市町村等と連携を図り、地域ぐるみでの“川づくり”を目指していく。

また、沿川住民等で組織された河川愛護団体と連携した草刈り、ゴミ拾い等の維持管理や地域住民、企業と関係町村とのパートナーシップによる河川美化活動・河川愛護活動である「川のアダプトプログラム事業」の普及に努めるとともに、河川が環境教育の場として有効活用されるよう地域住民や地域の小中学校との連携を深めていく。

天竜川水系飯田圏域河川整備計画（附図）

○新戸川

平 面 図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	1
縦 断 図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	2
流量配分図・標準横断図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	3

○円悟沢川

平 面 図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	4
縦 断 図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	5
流量配分図・標準横断図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	6

○松川ダム

流域一覧図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	7
ダム平面図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	8
ダム標準断面図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	9
ダム下流面図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	10
バイパストンネル平面図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	11
バイパストンネル縦断図	・ ・ ・ ・ ・	附図 -	12

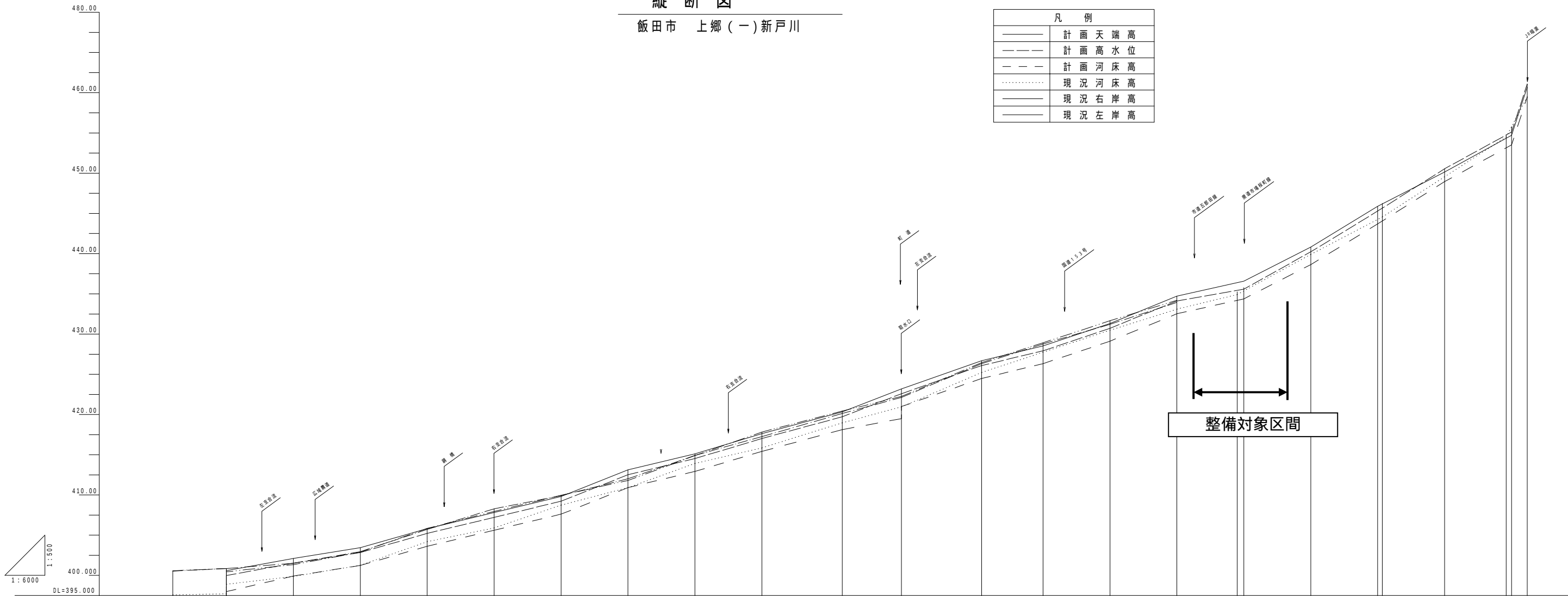
本附図の詳細な位置や構造等については、今後の詳細設計等により変更することがあります。

新戸川 平面図

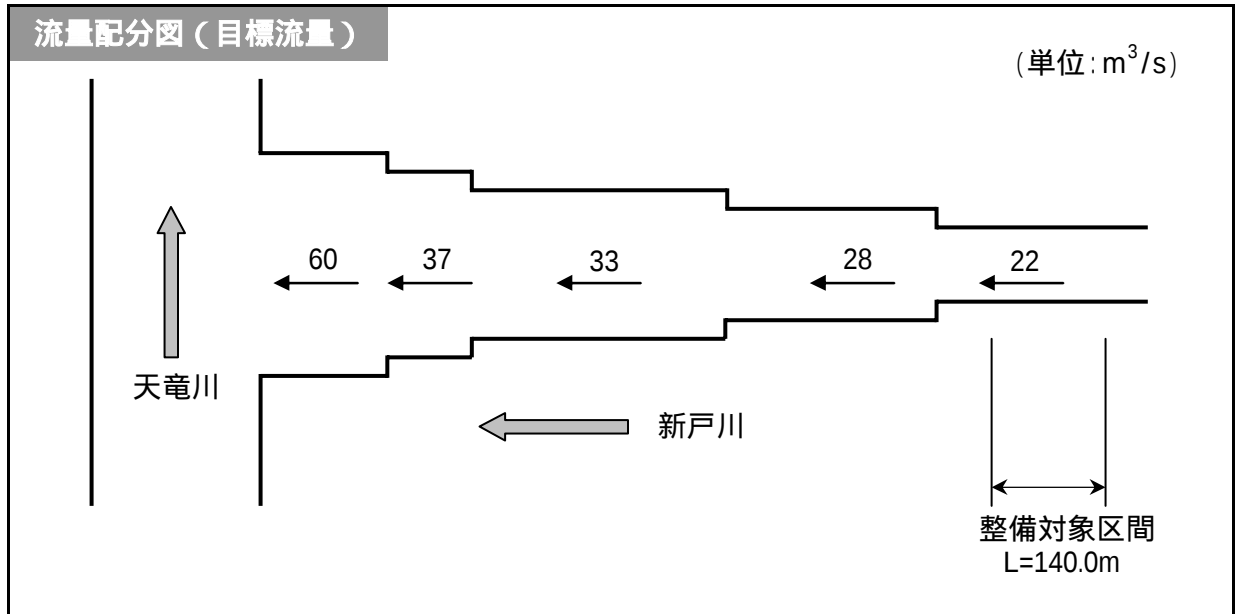


飯田市 上郷(一)新戸川

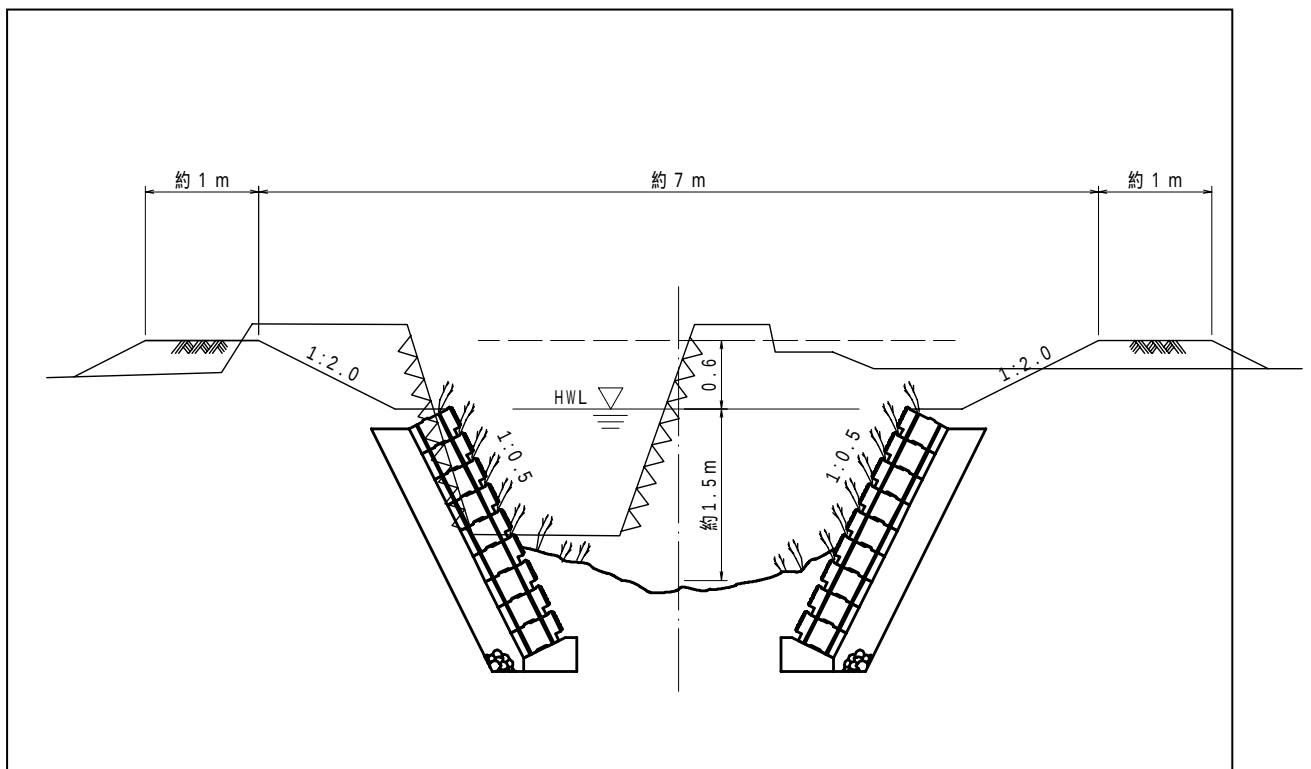
凡 例	
———	計 画 天 端 高
— — —	計 画 高 水 位
— — —	計 画 河 床 高
.....	現 況 河 床 高
———	現 況 右 岸 高
———	現 況 左 岸 高

[illegible]

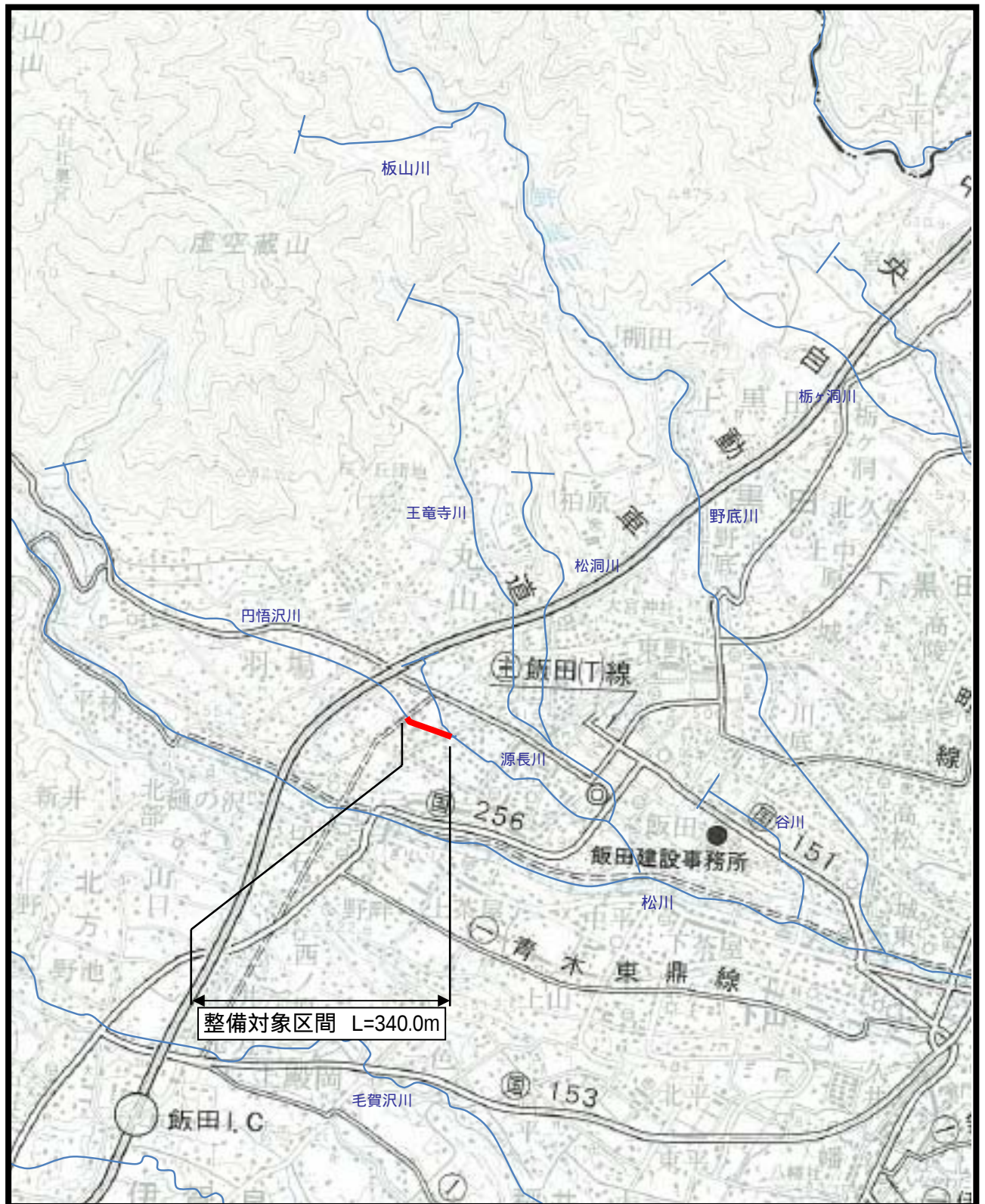
新戸川 流量配分図



新戸川 標準横断面図



円悟沢川 平面図

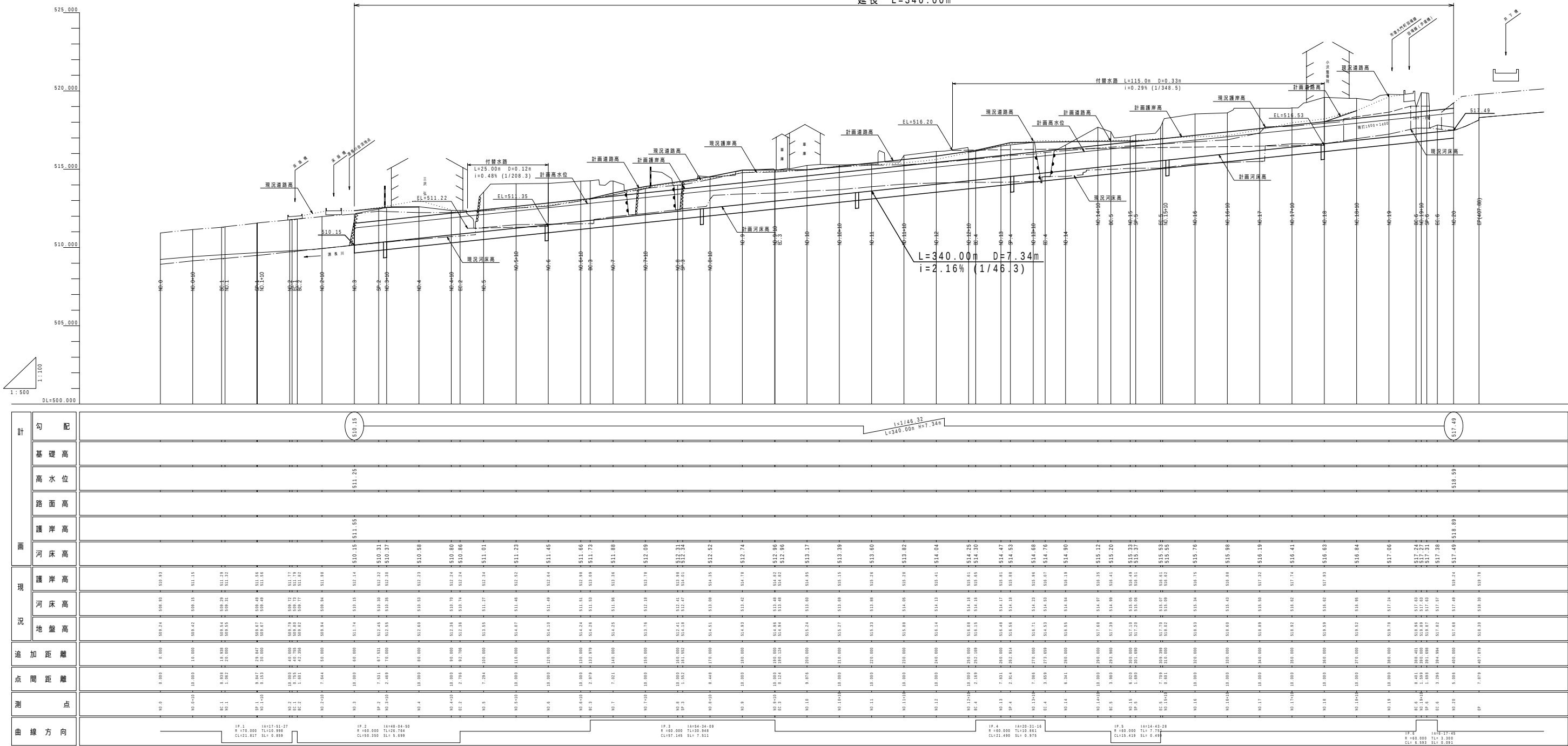


整備対象区間 L=340.0m

縦断図

飯田市 丸山 (一)円悟沢川

延長 L=340.00m

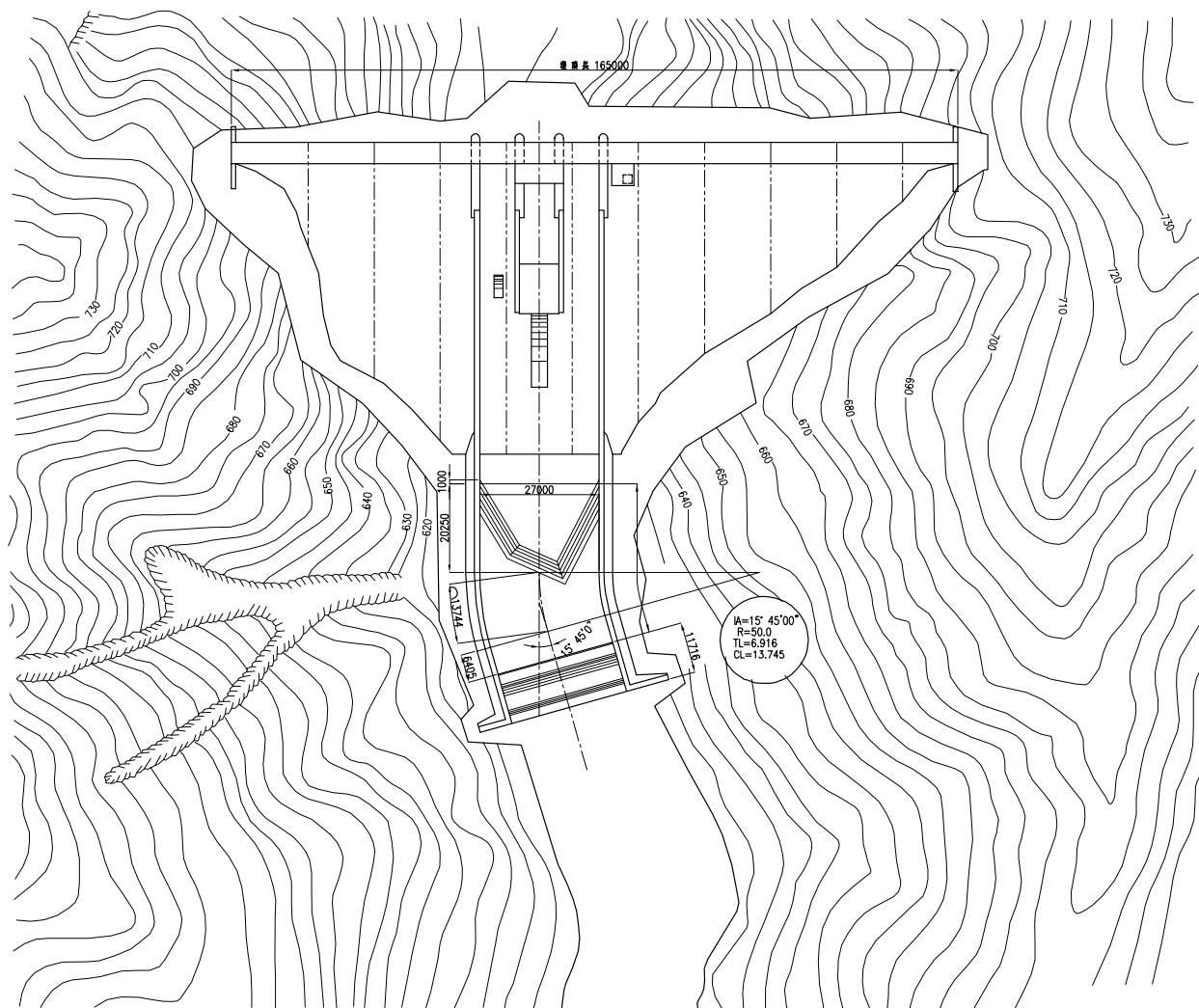


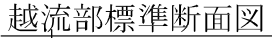
附図 - 5

松川ダム流域一覽図

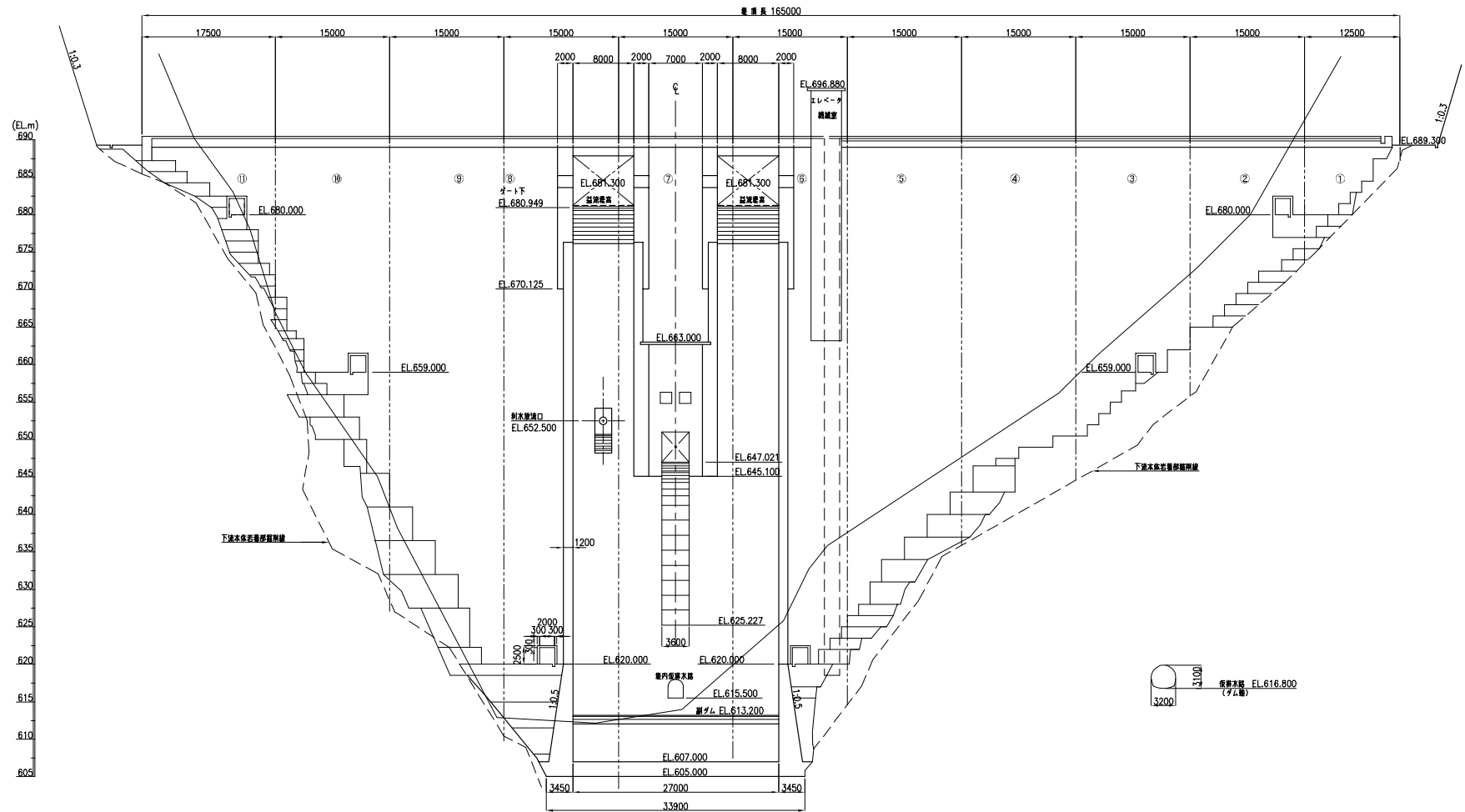


松川ダム平面図





松川ダム下流面図



バイパストンネル平面図



